



連載

意見広告

村上 栄二のここだけの話



4年間で300問題提起、1000以上の質問、それだけの職員との打合せ時間。

2016年8月市長選挙から5年間浪人生活を味わいました。
 その結果、政治家である意味をより深掘りが出来たのは、かけがえのない時間だと今なら言えます。
 広島県議会議員で叶えた事と言っても、議会で決めて実行するのは行政職員です。
 政治信条である【すべての人を納得させるのではなく、すべての人に説明責任を果たす義務がある】事からも、360度の人たちに説明責任を果たせる内容が政策でなければなりません。
 だからこそ政治家は、職員と膨大な時間を費やして意思疎通を図らなければなりません。

無所属ひとり会派でも声が届く政治

大阪市議会だと政党の議席数で質問時間が決まっていた。
 結果、党によっては5～10分などの質問時間となっていたのですが、広島県議会は毎月19日に常任委員会を行い、無所属ひとり会派でも無限に質問時間を与えていただけました。
 その結果、「ふくやまの声を県に届け、その声をカタチにする」を体現できました。

県議会4年を経験して感じた事

平等ではあるが公平ではない政治

巷で開催される各種研修や講演会を見ても、意識の高い人たちの出席ばかり…。本来、支援が必要な人達に行政の声が届かない…。逆に届かなければならない声が行政には届かない…。
 このジレンマを解消するのが、社会の実態に伴ったIT・AIの運用だと実感しています。

今後を見通して必要な事は？

今後を見通して必要な事は【SDGs、クリーンエネルギー、LGBT、AI、IoT】など、新たな価値が組み込まれ、県民の生活に尽力してきた県政において、これまで以上に【合理的に考え、効率よく動き、効果的に結果を出す政治】を貫きます。



2023年以降の村上栄二の軸となる考え

【特定の地域や団体だけに利益を誘導する政治】ではなく、【広島県・福山市全体の課題を解決する政治】を。
 【負担を先送りする政治】ではなく、【未来に責任を持った政治】を。
 また、【政策や想いで選ばれる政治】を実現したいと考えています。